

風の道

2025 Winter
vol. 39

TOPICS

新年のご挨拶

さらなる東部医療センターの発展に向けて

- 診療科のご紹介
- 部門のご紹介
- ヘルシーレシピ
- あじさい基金



● 名市大東部医療センター広報誌「風の道」のリニューアルについて

このたび、当院広報誌「風の道」はデザインや内容について、大幅にリニューアルをしました。
 本誌のロゴ及び表紙デザインは、名古屋市立大学芸術工学部 森 旬子研究室 八十田実優さん（3年生）に作成いただきました。
 デザインの刷新だけでなく、今後はより一層名市大東部医療センターの取組をお届けできる広報誌を目指していきます。

※ 写真上段：看護部（当院屋上へリポートにて撮影）
 ※ 写真下段：執行部（左より、松尾洋一副病院長、永谷祐子副病院長、大手信之病院長、丸山哲史院長代行・林香月副病院長）

[バックナンバーはこちら](#)



●理念

安全かつ高度な医療を提供し、
市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します

●基本方針

- 心臓血管・脳血管疾患・がんなどに対する高度・専門医療の充実に努めます
- 救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします
- 第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします
- 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- 医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います

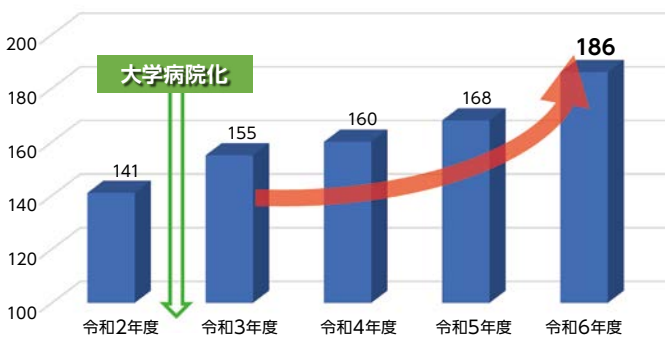
許可病床数 498床（一般病床488床・感染症病床10床）

診療科目 内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／腎臓内科／脳神経内科／血液・腫瘍内科／
内分泌・糖尿病内科／疼痛緩和内科／感染症内科／外科／呼吸器外科／消化器外科／心血管外科／
脳神経外科／乳腺・内分泌外科／小児外科／整形外科／形成外科／精神科／小児科／皮膚科／泌尿器科／
小児泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／リハビリテーション科／放射線診断科／
放射線治療科／病理診断科／救急科／麻酔・集中治療科／歯科口腔外科

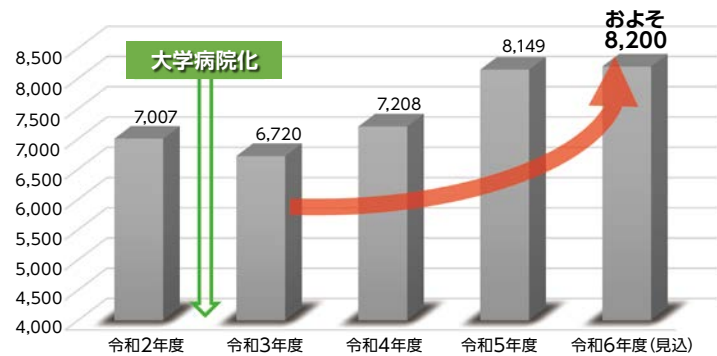
基本情報 地域医療支援病院、DPC特定病院群、救命救急センター、地域中核災害拠点病院、
日本医療機能評価機構認定病院（「機能種別一般病院2」3rdG:Ver.2.0）、第二種感染症指定医療機関



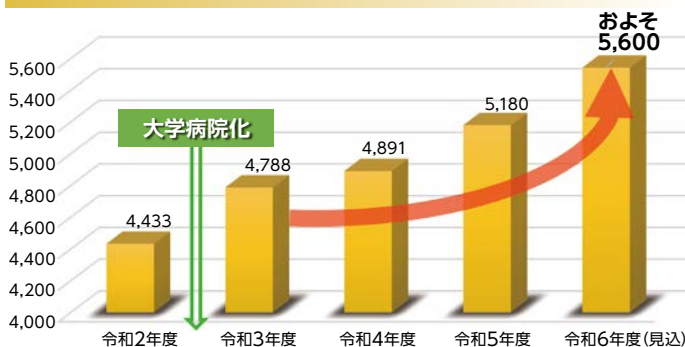
医師数(人)



救急搬送受入件数(件)



手術件数(件)



大学病院化により医療提供体制が強化され、【救急搬送受入件数】、【手術件数】等を着実に増やしております。

さらなる 東部医療センターの 発展に向けて

明けましておめでとうございます。本年もどうか東部医療センターをよろしく願い申し上げます。東部医療センターが大学病院化してから早くも4年が経過致しました。内側から見ますと病院は大きく変革し、ずいぶん市民の皆様のお役に立てる病院になったと自負致しますが、皆様はどうお感じでしょうか？皆様方にもそのように感じていただけるようにさらなる名古屋市立大学医学部附属東部医療センターのブランド化に取り組み、一層患者さんを選んでいただける病院になるべく頑張っております。東部医療センターの主な診療の方向性は以下の4点です。



病院長 大手 信之

1 地域医療支援病院としての役割

地域のクリニック・病院と密に連携し、救急あるいは重症患者の受入に遅滞なく対応するのが当院の役割と心得ております。また、治療の終了後は早期に地域の医療機関へ患者さんを逆紹介申し上げ、地域循環型の医療システムをより強固に構築して参ります。これが市民の皆様へのより良い医療サービス提供につながると確信しております。

2 救命救急センター

地域を越えて生命の危機にある重症患者を受け入れる3次救急の担い手、すなわち救命救急センターとしての診療体制充実を着実に図っております。医師・看護師の大幅な増員によって時間外における緊急手術や緊急カテーテル治療の複数件平行実施が可能な状態となっています。これにより直ちに命に関わる心筋梗塞、動脈解離、脳卒中等に対する夜間診療体制が大幅に改善しました。救急医療において市民の皆様への心の支えになることが東部医療センターの存在意義と考えております。救急車受入台数は大学病院化前の年間7,000件弱から今年度は8,200件強に達する予測です。



看護部長・副病院長 後藤 るり子

3 名古屋市内唯一の第二種感染症指定医療機関（感染症病床）

新興ウイルス感染症はまた必ずやってきます。万一の場合、東部医療センターは、新型コロナウイルス感染症流行の際に名古屋市内で最も早くから患者の受入を開始した経験を活かし、10床の即応病床に加えて、数日以内に計30床の患者受入が可能な体制づくりをしております。

ICU、HCUによる重症患者対応にも万全を期しています。名古屋市の感染症医療の砦たるのが当院の役割です。

4 がん診療の充実

大学病院化以後、がん診療体制の整備を強力に進めて参りました。充実した集中治療部門を背景に、特に合併症を有する高齢がん患者さんのお役に立ちたいと思っております。がん領域の教授招聘等により、年間手術件数は約4,500件から約5,500件へと4年間で1,000件増えました。また手術ロボット「da Vinci」を用いた低侵襲手術は令和6年度における予定実施件数は270件強と、1台当たりの件数では全国でもトップクラスの実績に至ることが予想されます。令和7年度には愛知県がん診療拠点病院の指定に向けて申請を行う予定です。

以上に述べさせていただきましたように、東部医療センターは地域の医療機関とも密に連携を図り、名古屋市民の皆様へ高度かつ安全・安心な医療を提供できるようにさらに前進してまいります。引き続きのご指導・ご支援を何卒よろしくお願い致します。

8/28
水曜日

11/13
水曜日

『市民健康講座』再開

新型コロナにより中断していた市民健康講座を4年ぶりに再開いたしました。第170回「婦人科悪性腫瘍の最新治療」（中山健太郎教授）、第171回「血液検査結果をどう見るか？」（柳田正光教授）を開催し、多くの方々にご参加いただき好評を得ました。

令和7年2月26日には第172回「心不全に備える：知って守るあなたの心臓」（和田靖明教授）を開催いたします。広報なごや、当院ホームページ等の情報をご覧ください。



中山健太郎教授
(産婦人科)



第171回の会場の様子

10/26
土曜日

『不審者対応訓練』を実施

愛知県警察、名古屋市消防局との合同で、院内での不審者対応訓練を行いました。不審者による刃傷事件が発生し、多数の負傷者が発生した場合を想定して、職員、患者・家族の安全確保、避難、トリアージや負傷者搬送など、有事への対応を確認しました。訓練には学生ボランティアにも患者役としてご協力をいただきました。今後も関係機関との連携をより強化することで当地域の災害医療体制の充実を図りたいと考えています。



さすまたでの対応の様子



制圧の様子

11/14
木曜日

『世界糖尿病デー in名市大東部医療センター ～一緒に考えよう これからの糖尿病～』を開催

今年も11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、糖尿病診療に関わるスタッフ（医師や看護師・管理栄養士など）が、それぞれの専門知識を生かしたブースを設けて参加者がスタンラリー形式で回るイベントを開催しました。患者さんやその家族が100名ほど参加されました。今年は、1型糖尿病患者さんの交流会を初めて実施しました。交流会では、同じ悩みを共有でき気が楽になったとの声もあり、とても盛り上がりました。

今後も患者さんにとってよりよい療養環境作りのお手伝いのできればと思っています。



頸動脈エコー検査
体験の様子



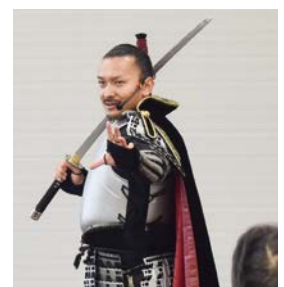
体成分分析装置「InBody」
による分析の様子

11/26
火曜日

『名古屋おもてなし武将隊®イベント』を開催

当院多目的ホールにて「名古屋おもてなし武将隊®イベント」を開催しました。多くの患者さんとそのご家族等にご来場いただき、武将隊による華やかな演舞や撮影会により大変な盛り上がりを見せました。

イベントを通じて見られた患者さんの笑顔に、医療スタッフ一同、感謝と共に元気をもらうことができました。今後もこのようなイベントを企画し、患者さんの心と体の健康をサポートしてまいります。



整形外科



整形外科、リウマチ・骨粗鬆症センターの治療最前線

当科は常勤医11名（写真1）および名古屋市立大学からの専門の応援医師と協力して治療を行っています。当院は日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本手外科学会の研修施設として認定され、さらにリウマチ・骨粗鬆症センターを併設し、先進的で高度な治療を提供できるよう体制を整えています。

関節手術では安全かつ正確な人工膝関節置換の実現のため、整形外科用ロボット支援手術システム「CORI」を導入しています（写真2）。人工膝関節置換術とは変形性膝関節症、膝の骨壊死、関節リウマチなどにより軟骨や骨がすり減り痛みが出た際に、その箇所を切削し人工関節を入れることにより、痛みなく歩けるようになるための手術です。CORIは、赤外線を発するカメラや赤外線を反射するマーカーを使用し、骨や膝の位置、動きを正確に認識し、医師が決めた範囲の骨のみを切除するようコンピューターが制御を行う手術支援ロボットです。患者さん一人一人の膝の状態を手術中にシステムに読み込ませることで、オーダーメイドな手術をサポートし、膝の状態に応じた人工膝関節システムを提供することが可能です。



写真1 整形外科スタッフ（前列中央：永谷副病院長）



写真2 人工膝関節ロボット支援手術システム「CORI」



写真3 AR hipナビゲーションシステム

また人工股関節置換術においてもAR（augmented reality；拡張現実）技術を用いたナビゲーションシステムを導入しています（写真3）。これらの機器を用いることで正確な人工関節の設置が可能となり、手術による患者さんの負担を軽減し、早期の回復、早期社会復帰を目指すことができます。自己免疫疾患のひとつである関節リウマチについては薬物治療から手術治療までトータル治療を行います。アンカードラッグであるメトトレキサートを中心に、生物学的製剤、JAK阻害剤といった最新の薬剤を患者さん個別の背景を考慮しながら使用し、リウマチであることを忘れるような治療をめざしています。治療の強化により、ステロイドや鎮痛剤の処方率も減少しています。関節の破壊が進行して、機能障害に至った患者さんには手術によって関節機能の回復をはかることをお勧めしています。機能

回復には先に述べた人工関節置換術（膝関節、股関節、肘関節）、前足部の変形に対しては関節温存も考慮にいたした足趾関節形成術を行います。また手外科医とも密に連携し、手の変形に対しても患者さんのご希望に沿うように最良の治療を行います。



写真4 骨折リエゾンサービスチームによる日本骨粗鬆症学会での発表

また急性期を担う病院として当科では骨折治療を数多く担っています。その中には骨粗鬆症に由来する脆弱性骨折（大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折、上腕骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折など）が多く含まれます。そこで当科では手術治療のみならず、骨粗鬆症対策の強化、二次骨折予防対策も主眼におき、リハビリテーション科、看護部、中央放射線部、地域連携室を含めた骨折リエゾンサービスチームを結成し（写真4）、社会復帰が達成できるようさらに地域の医療機関のみならずと連携していきたいと存じます。

また急性期を担う病院として当科では骨折治療を数多く担っています。その中には骨粗鬆症に由来する脆弱性骨折（大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折、上腕骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折など）が多く含まれます。そこで当科では手術治療のみならず、骨粗鬆症対策の強化、二次骨折予防対策も主眼におき、リハビリテーション科、看護部、中央放射線部、地域連携室を含めた骨折リエゾンサービスチームを結成し（写真4）、社会復帰が達成できるようさらに地域の医療機関のみならずと連携していきたいと存じます。

セカンドオピニオン外来のご紹介



当院以外の医療機関で診療中の患者さんが、これからの治療方法を自ら選択・決定することの支えとなることを目的として、セカンドオピニオン外来を設置しています。

詳しくはこちらからご確認ください。



消化器内科



診療科部長・教授
副病院長 林 香月

最新かつ高度医療

消化器内科は名古屋市立大学医学部附属病院化や新病院改築により人員拡充し最新医療機器を備え、最新かつ高度医療を提供しております。

その中から以下の①～⑤について紹介します。

①最新の内視鏡的診断

従来、診断や治療が困難であった肝臓尾状葉病変（肝臓の奥深い部位：S4）の超音波内視鏡下組織採取法を確立し、学会シンポジウムにて報告を行い、優秀論文として2024年の第60回日本胆道学会学術集会にて受賞いたしました。（写真1）



写真2 診療の様子

第60回日本胆道学会(2024/10/10) 平山 陽太先生 論文学会賞 授与式



写真1 学会での受賞の様子

②最新の内視鏡的診断と治療

通常の内視鏡は食道/胃/大腸を観察し治療しますが、当院では胆管や膵管内の観察や治療が可能な極細径内視鏡（3.5mm程度）を用いて日々診療を行っております（写真2）。その手技や治療を用いて胆管内嚢胞性病変を観察し内視鏡的開窓術（切開する）を本邦で初めて日本消化器内視鏡学会で報告し優秀演題賞をいただき、2024年に論文報告しております。

（題目：経口胆道鏡にて閉塞性黄疸を来す胆管壁内嚢胞を確認し経乳頭の嚢胞開窓術を施行した1例）

③高度な内視鏡的治療

施行ライセンスが必要な高度内視鏡治療である超音波内視鏡下LAMS（Lumen apposing metal stent）治療も可能です。従来法では治療困難であった感染性肝嚢胞に対して超音波内視鏡下にLAMS治療を行い日本内視鏡学会で優秀演題賞を受賞し、2025年1月に日本内視鏡学会誌への論文掲載が予定されております。

（題目：感染性肝嚢胞に対してLumen apposing metal stentを用いて経胃EUS下肝嚢胞ドレナージを施行した1例）

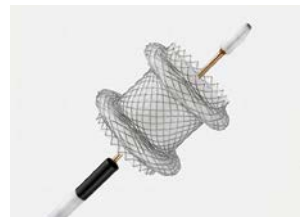


写真3 Lumen apposing metal stent

④学会での内視鏡指導

最新かつ高難度の内視鏡診断や治療などを学会セミナーで指導、2024年は特別企画として「スーパースターからの伝授」としてビデオ指導を実施しました。

⑤内視鏡診断や治療以外

内視鏡を用いない消化器疾患についても日本消化器病学会で報告し、2024年に論文報告をおこなっています。

（題目：肝血管腫が肝膿瘍化しEdwardsiella tardaが検出された1例）

当院理念「安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人育成」のもと、安心安全で最新かつ高度医療を提供し、患者/地域連携施設の皆様に選ばれる消化器内科となるように今後も努めております。



写真4 消化器内科スタッフ

がん相談支援センターのご紹介



令和6年4月に開設。患者さんやご家族のほか、地域の方々などなたでも無料でご利用可能です。

相談に関する各種情報は、こちらからご確認ください。



看護部

オレンジケアチーム（認知症ケアチーム）・
認知症ケアリンクナースの活動



当院は高齢の患者さんが多く、認知症高齢者日常生活自立度判定Ⅲ以上で入院される方の割合は2割程度となっています。急性期医療の高度化・複雑化に加え、認知症の有無に関係なく高齢の患者さんにとっては入院環境そのものがストレスとなります。せん妄の発症が必然的な状況であることを医療者として理解したうえで、安心して療養できるように入院環境を整えるケアの充実に努めています。認知症に関する看護外来では、ご本人やご家族のお話を傾聴し一緒にこれからの生活のことを考えています。

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行され、認知症と共に生きる人々の生活の質向上に向け、社会全体が一体となって認知症と向き合おうという時代です。オレンジケアチームは、多職種でその人らしい生活が送れるよう、ケアを中心に現場のスタッフと創意工夫しています。身体的拘束の低減、ベンゾジアゼピン系薬剤の減少などには結果ができています。チームへの依頼の多くは現場の困りごとですが、各病棟の認知症ケアリンクナースが、記録に残らない患者さんの穏やかな様子、いわゆるうまくいっているケアを可視化する活動を続けています。「やさしいケア報告」として、患者さんにとっての価値や尊厳を大切に



副看護部長 森田 麗



オレンジケアチーム

したケア結果をまとめたものです。各病棟から毎月報告があり、年度末には「ベストオブ・やさしいケア報告」を院内ニュースで発行しています。これからも、急性期の治療を受ける高齢の方が安心して療養できる環境を院内一体となり整えていきます。

2023年度
認知症ケアリンクナース会 やさしいケア報告

No.1

ナースコールの使用方法ができない方。マラカスを渡して、用件がある場合には音を鳴らすように伝えた。用件がない場合に使用することもあったがマラカスを鳴らし「部屋に戻りたい」など思いを伝えることができた。

コメント：「決まった方法ができない」「能力がない」と判断してしまうのではなく、できる方法で柔軟に対応できている。とても良いと思います。使う場所にもよりますが、ユニークで周りの笑顔につながりますね。ご本人もいつもお伝えされる安心感があってと思います。

薬剤部

薬剤師の力で、
患者さんにとって最適な薬物治療を実現する
ー変化してきた薬剤師の役割ー



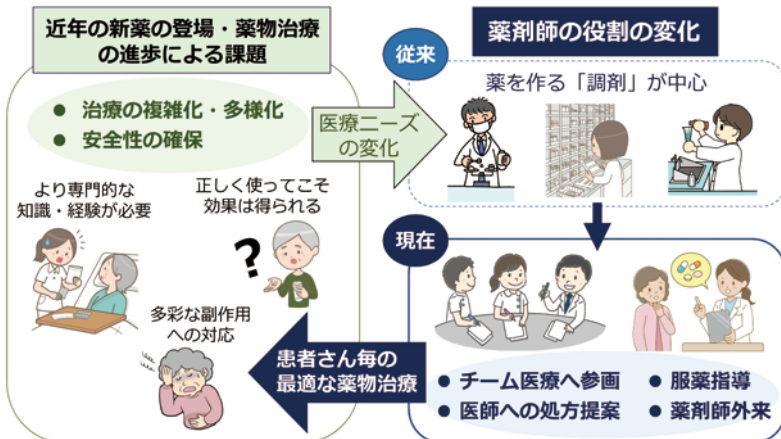
病気の治療に欠かせない薬、その専門家が薬剤師です。近年、様々な新薬が登場し薬物治療が進歩するなか、医療者にはより高度で専門的な知識・経験が必要とされています。薬剤師の仕事も、薬物治療の複雑化や多様化に対応すべく日々進歩続けています。

古来、薬剤師の仕事は薬を作る「調剤」でした。しかし、いかに優れた薬でも副作用によって続けられなければ効果は得られません。また、正しく使っこそ効果は発揮されます。そこで現在、薬剤師には薬物治療の安全性と質を高める役割が求められています。すなわち、医師だけではカバーしきれない、薬物治療の内容を患者さん毎に調整し最適化する仕事や服薬指導など、病棟やベッドサイドでの仕事を担っています。特に当院では「感染症」「救急/集中治療」「がん」の各領域にスペシャリストとして、学会認定を受けた「専門薬剤師」が医師・看護師等とのチーム医療をベースに入院患者さんの治療にあたっています。



当院薬剤部では臨床研究と学生教育も推進しています

左から西出景子講師・副薬剤部長、
近藤勝弘教授・薬剤部長、和知野千春助教



薬物治療の進歩に伴う薬剤師の役割の変化

一方、今後益々重要になるのが外来通院患者さんのサポートです。特に、当院が力を入れている、がん患者さんの抗がん剤治療は現在では通院治療が主体になりましたが、その副作用は依然大きな課題です。私たちは、がん専門の「薬剤師外来」を開設し、副作用の対処法などを患者さんに詳細に説明し治療を支援しています。また、薬学的視点で副作用の原因を分析し医師へ対策を提案するとともに、地域の保険薬局と連携して患者さんのご自宅での副作用症状をフォローする新しい取り組みも始めました。

以上、患者さんを支え薬物治療の安全性と質を高める、地域に根差した当院の薬剤師の取り組みをご紹介します。私たちは薬剤師の力で、患者さんにとって最適なさらに良い薬物治療を今後も目指し続けます。



栄養管理料理

ヘルシーレシピ



～切って“電子レンジ”で
温めるだけ～

高たんぱく質・低糖質のヘルシーな
キッシュが簡単に作れます♪
忙しい時間でも手軽に栄養が摂れます！



作り方

- ①皮をむいた玉ねぎは薄切り、水洗いしたほうれん草は3cm幅にカット、しめじは手でほぐしてグラタン皿(耐熱容器)に入れる。
- ②①を電子レンジで600W2分程度温める。
- ③ボウルに卵を割り入れ、ツナ缶(水はなるべく切る)、牛乳、マヨネーズ、塩、こしょうを入れよく混ぜて生地を作る。
- ④③を②のグラタン皿に流し入れラップをし、800W5分程度温める。※ラップなしだと蒸発した部分にすが入ります。
- ⑤④にとろけるチーズを全体にかけ、電子レンジでチーズが溶ける程度温める(トースターでもOK)

ツナとほうれん草のキッシュ

1食あたりの
栄養価 (1人分) **232kcal**

たんぱく質……16.6g 炭水化物………10.6g
脂質………7.9g 塩分………0.7g

材 料 (2人分)

ツナ缶(水煮) …………… 1缶
 玉ねぎ …………… 1/2玉
 ほうれん草 …………… 1束
 しめじ …………… 1/2株
 卵 …………… 2個
 牛乳 …………… 50ml
 マヨネーズ …………… 大さじ2
 塩 …………… 1つまみ
 こしょう …………… 適量
 とろけるチーズ …………… 大さじ1

アレンジ！ カレー

塩・こしょう・チーズだけでは物足りない方や、チーズが苦手な方向け

アレンジ！ タバスコ

ピリッとした辛さでパンチが欲しい方に

アレンジ！ トッピング

好きな野菜やキノコ類を自由に入ると、中身はいろんな種類が楽しめます！

あじさい基金について

当院では、広く寄附のご協力を仰ぎ、診療研究、人材育成及び医療環境の充実を図ることを目的として「あじさい基金」を設置しております。また、その成果を通じて地域の中核病院としての役割を果たして参りたいと考えております。皆様方のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

詳しくは
こちらから



名古屋市立大学
医学部 附属

東部医療センター

発行者／名古屋市立大学医学部附属東部医療センター広報委員会
〒464-8547 愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号
TEL 052-721-7171 (代表)

東部医療センター

検索

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/toubu/>

